

分析結果報告書〔11〕 1 / 2

3. 2 底質試料（総水銀：参照項目）

機関コード	
機関名	
電話番号	
国際的な認証等の取得（複数回答可）	1. ISO 9001～9003 2. ISO/IEC 17025(かゝ付 ² 25) 3. MLAP 4. 環境省が実施するダイオキシン類の請負調査の受注資格 5. (上記1～4を取得していないが)品質マネジメントシステム(QMS)を構築している
分析担当者名	
分析担当者の経験年数	() 年
分析担当者の実績 (年間の分析試料数)	()
分析(主)担当者以外の分析結果の確認	1. あり 2. なし

<重金属類の経験等>

廃棄物の重金属類成分	1. 分析したことがある	2. 分析したことがない
土壌の重金属類成分	1. 分析したことがある	2. 分析したことがない
環境水、排水等の重金属類成分	1. 分析したことがある	2. 分析したことがない

<分析結果>

回数	分析結果 (mgHg/kg) 注1)	
	検出下限値以上 注2)	検出下限値未満の場合：検出下限値 注3)
1回目		
2回目		
3回目		

注1) 分析結果(検出下限値以上)は下記<分析結果(乾燥減量)>を用いず実測した値とし、有効数字3桁、検出下限値未満の場合は検出下限値を有効数字1桁で該当する欄に記入する。記入にあたっては、記入間違いや単位間違い等がないように注意する。「分析結果」については、「検出下限値以上」又は「検出下限値未満の場合：検出下限値」のいずれかを記入する。

注2) 検出下限値以上であった場合、分析結果を有効数字3桁で記入する。

注3) 分析法の検出下限値未満であった場合、分析法の検出下限値(MDL)を有効数字1桁で記入する。

<分析結果(乾燥減量)>

項目	分析結果 (%) 注1)
乾燥減量	

注1) 分析結果は有効数字3桁で記入する。なお、複数回測定している場合では代表値(例えば、平均値)を1つ記入する。

<分析開始日等>

分析開始月日	月 日
分析終了月日	月 日

<分析方法等>

分析方法	1. 硝酸・過マンガン酸カリウム還流分解-還元気化原子吸光法 2. 硝酸・硫酸・過マンガン酸カリウム分解-還元気化原子吸光法 3. 硝酸・塩化ナトリウム分解-還元気化原子吸光法 4. その他()
使用した水	1. 蒸留水 2. 伊ソ交換水 3. 超純水 4. その他()

<試料溶液の調製>

試料量(分析用試料の分取量)	() g
硝酸・過マンガン酸カリウム還流分解法 注1)	硝酸() g 過マンガン酸カリウム溶液(3%) () mL
硝酸・硫酸・過マンガン酸カリウム分解法	硝酸() mL 硫酸(1+1) () mL 過マンガン酸カリウム溶液(3%) () mL ペルオキシ二硫酸カリウム溶液(5%) () mL
硝酸・塩化ナトリウム分解法	硝酸(1+1) () mL 塩化ナトリウム溶液(20%) () mL
試験溶液の量(定容量)	() mL

注1) 使用していない場合0「ゼロ」を記入する。

分析結果報告書〔11〕 2 / 2

<測定>

試料溶液の分取量	() mL
方式	1. 密閉方式 2. 解放送気式 3. その他 ()

<検量線の作成等>

定量方法 方法 内標準法：内標準物質の種類	1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法 4. その他 () ()
検量線 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値	() 最小 () ~ 最大 () 注1) 作成範囲の単位：1. μ gHg 2. mgHg/kg 3. その他 () ()
検量線作成用標準液の作成方法	1. 試料と同じ前処理操作を行う 2. 標準原液から希釈 3. 標準品（粉末）から調製 4. その他 () (2., 3. の場合の希釈溶媒：) a. 硫酸 (1+1) () mL 水 () mL b. 0.005% システイン水溶液（硝酸 %） () mL c. その他 () (3. の場合に用いた試薬 ())
試料の指示値 注2)	1回目 () 2回目 () 3回目 ()
空試験の指示値 注3)	()
装置検出下限値 (IDL)	()mg/L 注4)
IDLの算出方法	1. 「底質調査方法（平成24年8月環境省水・大気環境局）」に記載されている方法 2. 「水銀分析マニュアル」（平成16年3月環境省）に記載されている方法 3. 3σ 法で計算 (3. の場合 σ の算出法：(濃度) mgHg/L) (繰り返し回数) 回) 4. その他 ()
分析法検出下限値 (MDL)	()mgHg/kg 注4)
MDLの算出方法	1. 「底質調査方法（平成24年8月環境省水・大気環境局）」に記載されている方法 2. 「水銀分析マニュアル」（平成16年3月環境省）に記載されている方法 3. 3σ 法で計算 (3. の場合 σ の算出法：(濃度) mgHg/kg) (繰り返し回数) 回) 4. その他 ()

注1) 分析装置で測定する溶液中の量 (μ gHg) 又は濃度 (mgHg/kg) 等を記入する。

注2) 標準添加法では「添加のない試料」の値を示す。

注3) 標準添加法では記入しない。

注4) 試料中の濃度 (mgHg/kg) を示す。

<試料の保存状況>

保存状況 保存方法等 保存時間 注7) 保存温度	1. 冷暗所保存 2. 保存しない (直ちに分析) 3. その他 () 約() $^{\circ}$ C
--	--

注7) 時間単位で記入する (例えば、60分では1時間とする)。

分析実施にあたっての留意した点及び 問題と感じた点	
------------------------------	--

計算式	
-----	--